公民館だより
Kominkan Information Suzaka City 2005
すざか
12
No.524

第11回高甫ブロック大運動会（写真右）

10月23日（日）に第11回高甫ブロック大運動会が開催されました。（関連記事２ページ）

旧 園里学校（豊丘上町）（写真下）

明治前期の小学校建築の特徴を今に伝えている市指定有形文化財。（関連記事３ページ）

目 次

P2 いきいき公民館
（親父セミナー講演会、第11回高甫ブロック大運動会）
P3 人と向き合う（山岸隆さん）
歴史を探訪しよう（旧 園里学校）
P4 知っていますか　郷土の先人たち（天池多聞）
こども21すざか未来大学 豊洲分校 親子たこづくり教室
P5 わくわく公民館
P6 生涯学習だより（第12回生涯学習市民のつどい講演録PART1）
P7 生涯学習だより（放送大学・サークル訪問）
P8 博物館だより
P9 図書館だより
P10 すざか女性未来館・お知らせ

がりゅう山

最近24時間営業の店が増えてきました。その最たるものが略して「コンビニ」と呼ばれている店。急な買い物もできるようになり、便利になりました▼先日、夜中に家族で旅行に出かけました。午前3時を過ぎた頃、人家もまばらな山中で煌々と灯りがついているのには驚かされました▼普段なら眠っている時間帯に起きていて、小腹が減ったので何かお腹に入れようということになりました。車を止め店に入ると、暖かいおでんのにおいでいっぱいでした。これが一昔前なら、おにぎりとポットを持って出かけていましたが、便利になりました▼近頃も深夜、コンビニの前で親子づれをみかけました。子どもの眠る時間は既に過ぎていました。小さい子どもが寝つかないことは多々ありますが、あの子は何故深夜コンビニの前にいたのでしょうか。コンビニは忙しいとき便利だと思います。しかし小さな子どもが大人の生活スタイルと一緒になり、深夜連れ出されるのはいかがでしょうか▼子どもの成長過程にあった生活が送れるように大人が注意を払うことも大切だと思います。「便利」ということをもう一度考えてみたいと思います。

R100 古紙配合率100%再生紙を使用
PRINTED WITH SOYINK 大豆油インクを使用

いきいき公民館

子どもと大人の協働が地域をつくる

親父セミナー講演会

小中学生の子を持つ父親を対象に、より良い親子関係を築いていくため、11月3日（木・祝）に親父セミナー講演会を開催しました。

「大人と子どもが一体となって地域を作りましょう」

NPO法人アサザ基金※代表の飯島博さんを講師に『子どもとおとなの協働が地域を元気にする』と題し、ご講演いただきました。

飯島さんは「最近、大人や子どもそれぞれが『らしさ』というものを失っていると感じています。大人と子どもの関係がおかしくなってきていないでしょうか。大人と子どもが友達のようになるのではなく、互いの違うところの中にある良いところを出しながら家庭や地域の環境を作っていくことが大事だと思います。昔は子どもも家庭の中で手伝いなどをして、社会の一員としての役割がありました。今は大人が作った社会に子どもがお客さんのようにいるだけです。大人と子どもが一体となって社会を作り、役割をこなすことで子どもも成長していくのではないでしょうか」と話されました。

講演の感想をお聞きすると、「子どもが私たち大人の姿を見て少しでも良い影響を受けてくれるように、仕事以外の家庭や地域での活動に参加したいと思います」「須坂も地域活動で大人も子どもも共に成長していけるようになればいいですね」と、感心しながら話されました。

※NPO法人アサザ基金…茨城県霞ケ浦・北浦と、その流域の自然環境の再生と保全に組み込んだ社会システムづくりを行っている特定非営利活動（NPO）法人。

地域の力を結集して!!
第11回 高甫ブロック大運動会

10月23日(日)に第11回高甫ブロック大運動会が開催されました。

3年に1度開催している高甫ブロック大運動会は、今回で11回を迎えました。今年は「親睦の輪を広げ・明るい地域・輝く未来を築こう」というテーマで高甫地域の各町から大勢の方が参加されました。

今年は開会式にも趣向をこらし、ベニヤ板と扇風機、赤いナイロンテープを使って聖火台を作りました。聖火台への点火は老人会ブロック長の丸田智雄さんと高甫小5年の村石朋美さんの二人が協力して行いました。

明るい地域づくりの火が燈りました。

丸田さんは「聖火台がとても素晴らしい。公民館もご苦労していただきありがたいです」と感想を話されました。

種目は得点を競わず誰もが楽しめるレクレーション的なものから、ムカデ競争や町別対抗リレーなど定番の種目もあり、子どもからお年寄りまで幅広く楽しんでいました。

中でも、トーナメント戦で行われた綱引きは白熱し、応援にも力が入っていました。今年の総合優勝は村石町でした。

各町や地域で活動している力を結集させた結果、いつもと違う町の姿を見ることができたのではないでしょうか。

力を合わせて「せ～のっ!!」

北旭ヶ丘町青壮年会会長の山岸隆さんをご紹介します。

旧 紫雲寺町稲荷岡一地区の皆さんとの交流会

北旭ヶ丘町青壮年会は、今年で設立13年目を迎え、会員数は40名を超えました。私は平成16年から会長を務めさせていただいていますが、今までにいろいろな事をこの会で実施してきました。

この会では趣味やボランティア活動を通して地域、町内とのつながりを深めようと活動しています。

ひとくちに地域とのつながりを目的とした活動と言ってもいろいろありますが、年2回行うやすらぎの園での窓拭きや町内の空き缶拾いなどのボランティア活動はもとより、軽スポーツや秋の味覚会なども行い、何でも『楽しみながら』を一番に考えながら活動しています。

須坂市の姉妹都市でもある旧 紫雲寺町(現 新発田市)との交流会も平成6年から2年毎に開催するなど、町内だけでなく地域を越えた活動も行っています。

また、現在「虹のテーブル」が市で行われていますが、当会では平成4年から「ミニ市政懇談会」として市長・市議会議員を招き開催してきました。そこでは、より住み良い地域社会に向けての提言などをさせていただいています。

会社勤めをされている方には近所にどんな方がいるのかもわからない状況にある方もいると思います。これからは地域の横のつながりがとても大事だと思います。私もこうした活動を通して多くの人に出会い、楽しく過ごしています。これからも多くの方と楽しみながら地域と協力し活動していきたいと思います。

山岸　隆さん（北旭ヶ丘）

歴史を探訪しよう

旧 園里（その さと）学校（豊丘上町）

今もなお地域に慕われる学校

当時のままの風景が今も残されています

旧 園里学校は、明治6年に小山村(現在の市内大字小山)の止善（しぜん）学校の支校として灰野村(現 市内大字豊丘)の地蔵堂を利用して開校しました。その後、地蔵堂が焼失し、平屋建て40坪の校舎が現在の豊丘地域公民館の場所に新築されました。

明治15年には園里村立園里学校と改称し、その翌年は児童数の増加により現在の場所へ二階建て校舎が増築されました。

建築様式は外壁が土蔵造りになっていて、その隅の部分には漆喰を盛り上げ隅石を表しています。また、玄関の柱は木製円柱に筋彫りを施した洋風の造りになっています。

こうした建築様式は、明治20年以前の学校建築などに用いられていた『擬洋式』（洋風建築と日本の建築様式の折衷様式）の特徴をよく示していて、明治前期の小学校建築の特徴を今に伝えています。

現在の建物は平成3～4年度の2か年をかけて、建設された当時の姿に復元されたものです。

今は市指定有形文化財の保存とともに、昔の教科書や教材、道具などが展示され、生涯学習施設として利用されたり、平成14年度からは豊丘地区の児童クラブの活動施設としても一部利用され、今も地域の皆さんから慕われています。

なお、展示物などをご覧いただけるよう開放しておりますので、ぜひ一度お立ち寄りください。

●ご案内
開館時間
午前9時～午後4時
休 館 日
日曜日及び土曜日・祝祭日
12月～29日～翌年1月3日

知っていますか 郷土の先人たち ②

ふるさとの発展に尽くした人や、多くの功績を残した人々を毎月1人づつ紹介していくコーナーです。

自由奔放の書家 〝ねぼけ〟と呼ばれたその波乱の人生

天池多聞（1825～1885）

天池多聞は上水内郡三才村（現 長野市三才）に生まれました。本名は多三郎で、幼いころからまれに見る優れた才能を持ち、14歳ころには『四書五経』の手本を書いて村内の青年に与えたといわれています。20歳過ぎで江戸に出て湯島の聖堂で学問をしました。湯島の聖堂とは孔子を祀った建物で、ここで儒学の勉強をしたのです。修業の後、宮中に勤めましたが窮屈を感じて数日でやめ、下谷（東京都台東区）に私塾を開いて門弟に教えました。その後故郷に帰った後村山町に住み塩川町に塾を開きました。門弟は50人余りあり、住居は土栗（井上町）から幸高町へと移りました。

元治元年（1864）7月、佐久間象山が京都で暗殺されたとき交友関係のあった多聞も命を狙われ、ひどい仕打ちをうけました。そのせいで脳に異常をきたし、風変わりな言行をするようになりました。そんな多聞を近隣の人たちは〝ねぼけ先生〟と呼んで親しみ、尊敬しました。

書道をよくし、なかでも「竜虎」の大文字が得意で、揮毫のときは身体を清めて部屋に入り「ヤッ」と気合をかけた瞬間には書き終わっていたということです。福島の大幟（市指定有形文化財）を高井鴻山が揮毫したとき、その手伝いをしたと考えられます。また俳句もたしなみ、各地を巡って遠くは山梨・群馬・静岡まで行って教えました。俳号は野辺町の後藤慶雲に譲りました。次男の村治は絶えていた島田家を再興して島田姓を名乗りました。多聞の墓は井上町、字上町の阿弥陀堂裏にあります。

揮毫…書・画を書くこと。

（担当　生涯学習課）

多聞の書　（個人蔵）

こども21すざか未来大学 豊洲分校

11月12日(土)に豊洲地域公民館でこども21すざか未来大学豊洲分校の親子たこづくり教室を開催しました。

今回の教室は豊洲小学校の3年生とその保護者を対象に実施しました。

凧づくりは初めての取り組みでしたが、子ども17名、保護者13名の参加があり会場は賑やかでした。

指導は、凧づくりに詳しい荒井智雄さんにお願いしました。当日、中国の凧やハガキで作った凧などを持参され、子どもたちに見せてくださいました。子どもたちは初めて見る形の凧に興味を寄せていました。

うまく飛ばせるかな？

最初に、和紙に自分の名前や思い思いの絵を自由に描きました。大人も子どもも凧を作るのは始めてという方が多く、竹ひごを紙に張る工程には苦労している姿が見られましたが、オリジナルの凧が完成しました。

早速凧を揚げようと豊洲小学校のグラウンドへ向かいました。この日は風が強く悪条件だったのですが、子どもたちはうまく揚げようと一生懸命に走り回っていました。

参加した親子は「初めて凧を作ったけど、楽しかった」(子)「初めての体験で親子共に新鮮でした。飛ばし方にもコツがあるのですね。また子どもと揚げてみます」(親)と、感想を話してくれました。

凧づくりに初めて挑戦しました。

わくわく公民館
Waku Waku Kominkan

12月のロビーコンサート

ハーモニカで奏でる音色をお楽しみください。

と　き
12月13日(火)
午後0時15分～1時

ところ
須坂市公民館1階ロビー

演　奏
ハーモニーかなりや

市民学園公開講座

演　題　「いま、真実の生きる意味を求める」

講　師　作家　高（コ）　史明（サミョン）　先生

☆と　き　12月17日(土) 午後2時～3時30分
☆ところ　須坂市公民館　3階ホール
☆入場料　無　料
☆問合せ　市公民館
✆245－1598

実用筆ペン習字講座

<と　き>　1月20日、2月17日、3月17日(金)
午後1時30分～3時　【全3回】
<内　容>　筆ペン習字の練習
<持ち物>　筆ペン

初級書道講座

<と　き>　1月23日、2月27日、3月27日(月)
午後1時30分～3時　【全3回】
<内　容>　初歩の毛筆習字の練習
<持ち物>　習字道具一式

<ところ>井上地域公民館
<講　師>島田恵美子先生
<定　員>それぞれ10名程度
<受講料>無料(ただし、テキスト代は実費)
<申込み・問合せ>井上地域公民館　TEL246-2488

こども21すざか未来大学 本校事業

星空観察会

成人の方の参加も歓迎！

【と　き】12月17日(土) 午後7時30分～9時
【ところ】須坂市公民館　3階ホール
【内　容】公民館での観望会と学習会
【講　師】須坂ハイランド星を見る会の皆さん
【持ち物】筆記用具など
【受　付】12月5日(月)　午前9時から
【定　員】30名(中学生以下保護者同伴)
【申込み問合せ】市公民館
✆245－1598
※屋外で観察しますので、暖かい服装でお越しください。

祝成人 平成18年 須坂市成人式

新成人の皆さん、おめでとうございます。
公民館では、12月初旬に新成人の方、またはご家族へご案内状をお送りいたします。
式典のほか、新成人スタッフが企画・製作した「思い出のビデオ」の上映など、皆さんの成人を祝う手作りのアトラクションを予定しています。
なお、毎年1月の第2月曜日の成人の日に実施してきましたが、日曜日開催の希望が多数よせられましたことから、平成18年の成人の日の前日に開催いたします。

該当者
昭和60年4月2日から昭和61年4月1日までに生まれた方で、本人または家族が市内に在住されている方

式典・アトラクション
【と　き】1月8日(日)　午後2時30分から4時
【ところ】須坂市文化会館　メセナホール
【受　付】午後1時40分から2時10分
【お願い】当日は大変混み合いますので、時間に余裕をもってお出かけください。
【問合せ】須坂市公民館　✆245－1598

生涯学習だより

新しい風、生涯学習。

生涯学習のマスコット
『マナビィ』

編集・発行／
須坂市教育委員会
生涯学習推進センター

No.70

9月23日に開催された「第12回生涯学習市民のつどい」で、素晴らしい講演をされた田中本家博物館館長の「田中宏和」氏の講演要旨をご紹介します。来月号は、宮下医院院長の「宮下俊一」氏の講演要旨をご紹介します。

『北信随一の須坂の良いところ再認識と今後のまちづくり』

田中宏和氏

須坂の今後のまちづくりをどのようにしたら良いかを語るには、まず、我々の先人や歴史を学び須坂の良さを知って、この須坂の町に誇りを持つことが必要ではないか。

昔からの町である仁礼や井上福島あたりまで広げてしまうと話がぼやけてしまうので、今回はクラシック美術館から普願寺さんまでの間の範囲内で語らせていただきます。

江戸時代二百何十年の間、北信では須坂と松代と飯山に殿様がいましたが、殿様（須坂藩主＝堀家）がまったく変わらなかったのは須坂だけで、そのために須坂だけにある文化がいっぱい残っています。

須坂藩は一万二千石と言われているが、市川健夫先生の調査によると、江戸時代の須坂の人口は約四千人いた。四千の人達を賄えた町須坂は、実際には五万石程度の経済力があったのではないか。

須坂藩やお殿様の文化が高かったその裏付けとして、須坂市立博物館にある11代藩主堀直格公が著いた「扶桑名画伝」（53巻）は、水戸藩の大日本史に匹敵し、専門家が日本の絵画史を勉強する上で必見の本と言われています。

講演する田中氏

今、田中本家博物館では吉向の開窯二百年記念展を開催していますが、須坂に芸術性・美術性の高い近世の名陶工といわれた吉向父子並びに絵師達11名を呼び、9年間も焼かせた殿様も堀直格公でした。江戸で多くの文化人ともお付合いのあった殿様だからこそできた事です。それから13代の堀直虎公が著したとされる「聚譜（じゅふ）」は桜の花252図を肉筆で描いた絵と文で、素晴らしい文化を須坂にもたらしています。私の家に残る古文書を見てびっくりしましたが、江戸時代に須坂で一年中お刺身やカステラ、金平糖、羊羹、中華饅頭など食べています。須坂にそういう食文化もすでにあったのです。

こうした素晴らしい先人や歴史について、須坂の人の大半は知りません。須坂のことをもっともっと学んで、自分の町に誇りを持ちたいものです。

歴史の話ばかりしていてもいけませんが、今後のまちづくりは、やはり、そういうものをもっと活用していかなければいけない。これからは本物が認められる時代に必ずなってきます。そういった場合に須坂にはもの凄い本物がいっぱいあります。

観光協会でも須坂を売り出そうと昨年からマスコミの方々と東京や大阪で懇談しました。お陰様で取材に来てくれ、新鮮な目で物を見ますから須坂のことを記事に書いてくれました。これからはもっと須坂の良さを情報発信することが必要です。

さて、まちづくりをどう進めていくかを考えた時に、今の須坂の人ってどうなんだろうか。中心市街地のお宅を見て思いますのは、明治になってからの素晴らしいお宅がたくさん残されています。江戸時代から須坂の商人は相当しっかり蓄財をして裕福だったのだろうし、今も裕福なのだろう。それで慌てないのだろうと思う。

小布施の栗菓子屋さんは小布施だけでは商売にならないから小布施以外で売っています。やっぱりハングリー精神が違うのではないか。須坂は須坂で売っていればいいからという感じで商売をしている。のんびりしているというか、それだけ良い町なのですね、ある意味でいえば。すごく良い町なのでしょう。

去年から市長さんの提案で戦略会議というのが始まりました。素晴らしいメンバーで須坂を変えていこうとしています。小布施の場合は、商人の方がそうでしたが、「何とかしようよ」と言った時に皆さんが乗ってきて協力してくれれば町は必ず変わるはずです。「あれは行政がやるんだ」「行政は何もしてくれないから」って須坂の人は必ず言いますけれども、そうではなくて自分から実行しなければ良くなりません。

特に皆さんにお願いしたいのは、須坂の3無い主義を止めて欲しいことです。よく須坂は観るところ、食べるところ、買い物できるところが無いと、殆どの市民が自ら言っています。これでは須坂の町、いくら皆さんが町をよくしたいといったって良くなりません。今、駅前からある多くの食堂、お店、喫茶店など美味しくて、素晴らしいとPRしてください。

最近、あるお店の「おやき」が全国的に通信販売で売れ出しています。マスコミで取り上げてくれたからですが「うらやましいな。あそこだけ」と言います。そんなこと言わずに自分も頑張りましょう。頑張っているお店を皆で盛り上げるようにしない限り町なんて絶対よくなりません。街中を歩いている時の言葉かけも大切です。「商売やってないから関係ない」ではなくて「どちらに行こうと迷っておられますか」と声をかけるだけで「いい町だ。また来よう」となるわけです。この実践こそがまちづくりであって、それが須坂に来たお客様に対するおもてなしだと思います。

より良い須坂のまちを目指して、まず、ここからお互いに実践をして行きたいものです。

（文責：生涯学習推進センター）

自宅がキャンパス！

放送大学

社会人も大学生！
放送大学平成18年度
第一学期学生募集

放送大学は、テレビとラジオの放送授業を中心に自宅で学べる正規の大学です。

生涯学習を目的に短期間在学し、興味のある科目だけを学習することもできます。

◇募集する学生の種類
全科履修生（大学卒業コース）
選科履修生（1年間在学コース）
科目履修生（6ヶ月在学コース）
大学院修士
選科生（1年間在学コース）
科目生（6ヶ月在学コース）

◇出願受付期間
12月15日～2月28日

◇授業開始
平成18年4月1日

◇視聴方法
須高ケーブルテレビまたはスカイパーフェクTV

◇資料の請求（無料送付）
放送大学長野学習センター
〒392－0004
諏訪市諏訪一－六－一
スワプラザビル4階
☎0266－58－2332
（月曜日、祝日休み）

生涯学習推進員のサークル訪問㉛

万葉読書会の巻

会の発足と学習日は？

昭和43年、須坂小学校を卒業する児童のお母さんたちが今後も勉強したいと集まり、当時の図書館長・神林清先生にご指導をお願いしたことがきっかけで発足しました。平成2年には20周年を迎え、信濃毎日新聞にも紹介されました。現在は女性15名で第2・4金曜日の13時30分から1時間半の学習を重ねています。

活動内容は？

一回の講座で取り上げるのは、万葉集4500余首の中から20首ほど。情景・背景・人間関係など活発に意見を交換しながら学習します。神林先生が亡くなられた後は会員が交替で当番となって進行、解説をして学習を進めています。歌集は既に2回読破しており、現在3回目の勉強を続けています。また、万葉集に歌われている土地を訪ねて現地学習するのが毎年1回の恒例行事となっており、それが長い活動を継続する活力になっているそうです。

機関誌『飛鳥』

「自分を向上させる時間に身をおく喜び」～会員の声～

「年齢差を感ぜず、家庭のことも忘れて、古代のロマンに触れることはすばらしい。鳥のこと、花のことなど、万葉集にかかわりながらいろいろな知識を交換し合っています。古文書研究や郷土史研究など他の学習をしている人もあり、それらが万葉集と共通する部分も多く学習の成果につながります。このように、自分を向上させる時間に身をおく喜びが長い間この会を続けている原動力です」こう語る皆さんは、ロマンチックな人達ばかりだそうです。

インタビューを終えて

格調高い雰囲気の中で活発な意見が交わされていました。何百年前の歌集にもかかわらず、それを通じて人と人が出会い、ひとときその時代にひたり、その地を訪ねてみたくなるほど、現代人の心にも影響を与えている。私もちょっと万葉集をみてみようかなという気持ちにさせていただきました。なお、万葉読書会では新入会員を募集しているようですので、興味のある方はぜひご連絡下さい。

（女性のみ限定）

連絡先：梅本和子さん ☎245－0137

（生涯学習推進員会広報部会：岩井・尾崎　記）

須坂市立博物館
博物館だより
開館時間　午前９時から午後５時　☎＆FAX 245-0407
休 館 日　５・12・19・23・26・29日～１月３日

特別展 ―開催期間が残りわずかになりました―

『激動の幕末を拓いた藩士たち』

開催期間　～12月11日（日）

【入館料】　高校生以上300円　小中学生50円

特別展図録　好評発売中

ご好評いただいている特別展で展示中の史料のほか、幕末を中心とした須坂藩の基礎的情報や、藩の研究に欠かせない丸山家文書を写真収録したビジュアルな図録です。

展示を見ながらご覧頂くにも、また今後の学習・研究の手引きの一助としても役立ちます。１部1,000円で販売しています。

第９回 臥竜山たんけん

『シジュウカラとヒヨドリを探そう』
～冬の野鳥ウォッチング～

「臥竜山たんけん」恒例となった竜ケ池の冬の渡り鳥の観察会。今回は竜ヶ池のカモたちに加えて、一年中臥竜山にいて、庭先にもくるシジュウカラとヒヨドリたちも探したいと思います。野鳥たちの食べ物や人との関わり・生態についての説明など、博物館ならではの観察会です。

［と　き］　１月７日（土）午前９時00分～
［ところ］　須坂市立博物館前　集合
受付　午前８時40分～
［講　師］　長野自然観察の会　清水良昭先生ほか
［内　容］　竜ケ池のカモの観察と、臥竜山にいるシジュウカラとヒヨドリの観察
［持ち物］　筆記用具・双眼鏡（あるとよく観察できます）お持ちの方は冊子臥竜山ハンドブック第１集「臥竜公園の鳥類」をご持参下さい。無い方には観察会資料として差し上げます。
［身支度］　歩きやすく暖かい支度
［参加料］　小学生以上1人50円（保険料）
［申し込み・問合せ］　申込み不要
須坂市立博物館　☎245−0407

特別展の展示品から

幻の銅像とその姿 ～奥田神社境内の小林要右衛門季定の像～

奥田神社境内を入ると見たところ石碑らしきものがあります。（中央写真右側）実はこれはもともと像の台座として建てられたもので、上には小林要右衛門季定の銅像がたっていました。

季定は幕末の須坂藩士で、戊申戦争の際に藩の存亡をかけて小隊を率いて出兵します。その功績を顕彰して明治35年に銅像が建立されました。（小林季定のことは、公民館だより平成15年９月号の３ページに詳しく紹介されています。）

（個人蔵）

第14代須坂藩主堀直明から季定あての書状「戊申戦役戦功賞典頒与状」（個人蔵）

昭和18年頃、同じ敷地内にあった「時の鐘の鐘楼」の鐘と同様、供出されてしまいました。現在では左のような写真や、この銅像の元絵（右写真）などから往時の姿をわずかにたどる事ができます。

（個人蔵）

図書館だより

開館時間　平日　午前９時～午後６時　☎ 245-0784
土・日　午前９時～午後５時　FAX 245-4313
休館日　5・12・19・23・26・28～1月3日

平成17年度　須高読書感想文コンクール　受賞者発表

小学生の部　低学年　一類		
金賞	古平　萌	日野小1
銀賞	島田　泉吹	森上小2
銀賞	佐藤　美玖	井上小2
銅賞	金箱　智恵	小山小2
銅賞	飯泉　渚	森上小2
佳作	寺沢　宙	豊丘小2
佳作	飯泉　碧	森上小2
小学生の部　低学年　二類		
金賞	丸山　莉穂	旭ヶ丘2
銀賞	関谷　絢斗	須坂小1
銅賞	北村遼太朗	井上小2
佳作	池田朋実子	旭ヶ丘1
小学生の部　低学年　三類		
金賞	矢野　泰良	須坂小2
銀賞	小笠原亜美	須坂小2
銀賞	桜井　美月	須坂小2
銅賞	藤井　理江	須坂小2
銅賞	村石　理絵	森上小2
佳作	松村　栞菜	井上小2
佳作	齊藤　彩音	井上小1
小学生の部　中学年　一類		
高山村教育長賞	荒井　舞子	高甫小4
金賞	寺沢　月花	豊丘小4
銀賞	村田　将一	栗ガ丘3
銀賞	鈴木　啓真	栗ガ丘3
銅賞	湯本　晶葉	栗ガ丘3
佳作	小林　史歩	仁礼小3
佳作	浅倉　瞳	栗ガ丘3

小学生の部　中学年　二類		
金賞	垂澤　峻吾	小山小4
銀賞	池野　亜実	小山小3
銀賞	髙見沢美琴	栗ガ丘3
銅賞	澤田　奈央	栗ガ丘3
銅賞	下里　建介	須坂小4
佳作	佐藤　仁美	栗ガ丘3
佳作	坂田　美峰	仁礼小3
小学生の部　中学年　三類		
金賞	夏目　梨沙	井上小3
銀賞	山岸　望	仁礼小3
銀賞	尾﨑　栞菜	小山小4
銅賞	伊原美緒里	小山小4
銅賞	下鳥　泰大	小山小4
佳作	會津　正樹	旭ヶ丘3
佳作	監物　芽吹	豊丘小4
小学生の部　高学年　一類		
小布施町教育長賞	村上　夏子	小山小5
金賞	中沢　芽	小山小6
銀賞	島田　祐衣	栗ガ丘6
銀賞	佐久　詩織	豊丘小5
銅賞	髙澤　伸彰	栗ガ丘5
銅賞	北澤　千佳	日滝小5
佳作	前田芙美子	小山小5
小学生の部　高学年　二類		
金賞	吉澤めぐみ	豊洲小5
銀賞	浦野　桃子	須坂小5
銀賞	篠原　舞緒	仁礼小6
銅賞	中島　啓太	高甫小6
銅賞	竹前　晃平	小山小5
佳作	田子　聡美	仁礼小6
佳作	山﨑　絢恵	栗ガ丘5

小学生の部　高学年　三類		
金賞	文平　由美	小山小5
銀賞	黒岩　三貴	高甫小6
銀賞	丸山みほの	旭ヶ丘5
銅賞	鈴木　愛佳	栗ガ丘6
銅賞	上野　正輝	須坂小5
佳作	村石　真悠	高甫小6
佳作	池田　美咲	旭ヶ丘6
中学生の部　一類		
高山村公民館長賞	石澤　史織	小布施中3
金賞	西原　芽依	相森中3
銀賞	西原　成実	墨坂中1
銅賞	藤澤　康平	東中2
佳作	樋口　綾	東中3
佳作	西尾　萌	小布施中2
佳作	木原　愛美	墨坂中2
中学生の部　二類		
須坂新聞社賞	堀﨑　優季	墨坂中1
金賞	市川　健吾	東中2
銀賞	荒井　彩子	常盤中1
銅賞	中村真実子	常盤中1
佳作	上野由美子	東中3
中学生の部　三類		
須坂市教育長賞	小林　祥子	墨坂中3
金賞	堺　彩夏	小布施中2
銀賞	霜田　絢子	相森中2
銀賞	石田　直輝	相森中1
銅賞	傳田　七海	相森中1
佳作	山嵜美奈子	高山中3
佳作	中村　公美	小布施中3

ご応募ありがとうございました！

みんなでクリスマス会

日時　12月３日（土）　午後２時～
場所　市立須坂図書館　講習室
内容　しかけ背景つき人形劇「おにがでた！」
　　パネルシアター・手品
定員　１００名（先着順）

♪今年もサンタがやってくる！

行事のご案内 Event Information

おはなしの会	10・17・24日（土）	午前11時～
一茶の会	10日（土）	午前９時30分
創作童話の会	10日（土）	午後２時

※今月はあかりの会・西行法師の勉強会はお休みです。

お問合せ・お申込み　すざか女性未来館　TEL 245-1598

福祉住環境コーディネーター講座

毎年ご好評をいただいている福祉住環境コーディネーター講座を今年も開催します。

高齢者や障害者の暮らしやすい環境を提案するアドバイザー「福祉住環境コーディネーター」の資格取得を応援します。

【内　容】「福祉住環境コーディネーター検定２級」取得に向けた学習。テキストによる講義等

【と　き】 １月11日(水)から３月22日(水)までの毎週水曜日
午後７時から９時　全11回

【ところ】 すざか女性未来館　大講習室

【講　師】 黒崎 利弥 先生

【対　象】 市内在住または在勤の方

【定　員】 25名(受付先着順締切り)

【受講料】 無料
(但し、テキスト代6,000円は受講者負担)

【受　付】 12月５日(月)　午前９時から

【申込み・問合せ】 すざか女性未来館　✆245-1598

第23回 すざか女性未来館のつどい

共にひろげよう生きがいの輪2005

【と　き】
12月４日(日)　開場：午後０時45分

【ところ】
すざか女性未来館・須坂市公民館

【内　容】

♪ステージ発表
…ファッションショー・演奏 等

♪作品展示
…七宝焼・書道・手まり・編みもの
和紙絵・リフォーム作品 等

♪体験会
…押し花・編みもの

☆料理の試食コーナー・お茶席もあります☆
≪皆さまのご来場をお待ちしています≫

休館日のお知らせ

須坂市公民館、各地域公民館、仁礼コミュニティセンター、旭ヶ丘ふれあいプラザ、農村環境改善センター、すざか女性未来館は年末年始の６日間休館とさせていただきます。

平成17年12月29日(木)

↓

平成18年１月３日(火)

男性の料理講座

喫茶店のメニューでランチを楽しみましょう！

【と　き】
【内　容】
平成17年12月18日(日)：オムライス
平成18年１月29日(日)：シーフードドリア
２月19日(日)：トマトスパゲッティー
３月19日(日)：カツサンド
午前10時から正午

【ところ】 すざか女性未来館　料理実習室

【材料費】 各回500円

【講　師】 山岸信幸先生

【定　員】 20名

【持ち物】 エプロン、筆記用具

【申込み問合せ】 すざか女性未来館
✆２４５－１５９８

女性の参加もOK！